

まちに開いた交流の場のデザイン

Designing a place of exchange open to the city

-住宅地の価値を上げる-

Increase the value of a housing area



地域に開かれた空間「CASACO」の新たな使い方の提案

野毛山公園の裏の住宅地にある「CASACO」は、二軒長屋を改修し、2Fをシェアハウス、1Fを地域に開いた場として2016年4月にオープンしました。このプロジェクトでは、地域の価値向上を目指して1Fの場の使い方を提案し、運営者の了解を得られれば実行していきます。学生は完全ボランティアでもなく、「稼ぐ」ビジネスを立案するものでもなく、中間の方法で活動を行い、全国に広がりつつあるソーシャルビジネスの方法論を実践を通して学ぶ活動です。

今年度はコロナ禍のために現地でのフィールドワークやイベントの開催ができない中、CASACOの管理人や住人と連携することで新たな活用方法の提案を目指しました。

《CASACOとのミーティング》緊急事態宣言下で外部者が立ち入りできない事を踏まえ、テレビ電話とCASACOを組み合わせたイベント等の提案を行いました。CASACO運営側と議論する中で、人を結びつけるイベントの重要性やCASACOという空間の性質を再確認しました。

《たまり場の提案》外部の人がより入りやすい空間とする為に、内部空間と外部空間を結びつける「たまり場」を布の間仕切りによって作る提案を行いました。同時に、イベントでも利用可能な間仕切りの活用法について計画しました。

《熱環境改善PJ》冬場の光熱費が高騰していた為、CASACOの光熱費を節約する間仕切りを提案しました。CASACOの住人を通して調査を行い、たまり場PJを踏まえた提案を行いました。

現地に赴くことができない状況下で実現しなかった提案も数多くありましたが、コロナ禍回復後を見据えたアイデアを提示することができました。CASACOや地域の方との意見交換をより積極的に行い、今後も引き続き地域の価値を上げる活動を継続していきたいと考えています。

■学生：13名（木村夏輝、阿部ほなみ、坂田直哉、寺内太一、勅使河原大誠、石井優歩、鈴木雄斗、張叶橋、安藤小春、大野修平、大野大河、高階寛之、周エイキ、/ 担当教員：江口亨）

■活動地域：横浜市西区東ヶ丘町

■連携・協力：CASACO（カサコ）